

政策方針27 暮らしの水

～ひと まち 暮らしを支える京の水をあすへつなぐ～

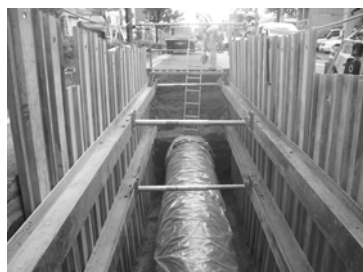
基本方針

市民のライフラインとして重要な水道・下水道は、河川とともに、都市の基盤施設であると同時に琵琶湖・淀川水系における水循環の一翼を担い、流域全体の水環境の保全に大きな役割を果たしている。安全・安心で良質な水道水を安定的にお届けする「水道」、大雨による浸水被害からまちを守るとともに快適で衛生的な都市生活を支える「下水道」、治水対策を推進し、あわせて都市に親水空間を生み出す「河川」について、“暮らしの水”に関する機能の充実・向上を図りながら、未来の京都に引き継いでいく。

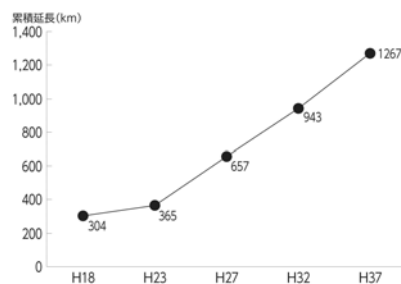
現状・課題

- 耐用年数に達した施設の改築更新や、頻発する大地震、風水害に備えた早期の耐震化、浸水対策などの取組が求められている。また、水道水質への不安を払拭するとともに、河川や下流水域の水環境を守る取組も進めていく必要がある。
- 水道水が飲料水として再評価されるとともに、水道・下水道の水質、料金制度など上下水道への関心も高まりつつあり、お客さまニーズが多様化・高度化している。
- 節水型社会への転換により水需要は年々減少し、事業運営を支える収入が大きく落ち込む一方、膨大な施設の改築更新等に巨額の経費を要し、財政状況が厳しさを増している。
- 局地的集中豪雨の頻発傾向により、河川や水路の氾濫による浸水被害が懸念され、市民の都市型水害への関心が高まる一方で、水害に対する具体的な備えや認識が不足している。
- 豊富な地下水などに培われた京都ならではの水文化や、市民の暮らし・まちの活性化の礎となった琵琶湖疏水、川づくりの歩みについて共有する必要がある。

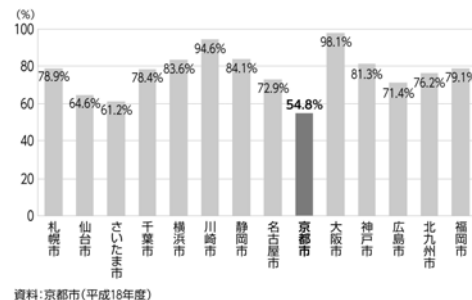
◆水道管の改築更新



◆耐用年数を迎える下水管が増大していく



◆低い水準にある京都市の河川改修率



みんなでめざす10年後の姿

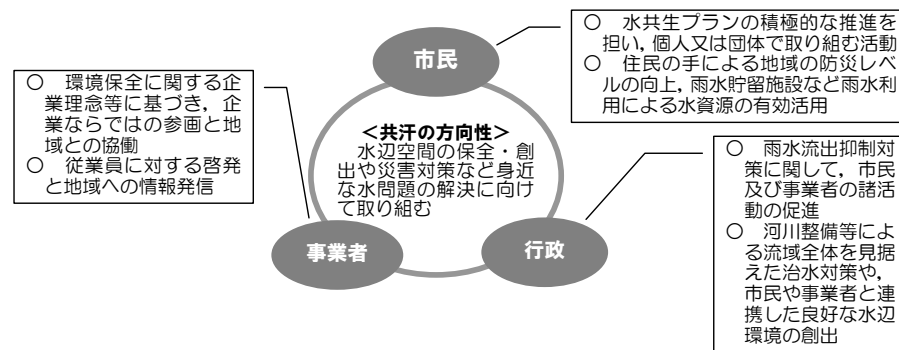
- 1 安全・安心で環境負荷の少ない水道・下水道, 安全で親まれる河川となっている
計画的かつ効率的な改築更新や必要な整備・維持管理を適切に実施することにより、災害にも強く、環境への負荷の少ない、安心して使い続けられる水道・下水道, 安全で親まれる河川となっている。
- 2 上下水道サービスの向上が図られている
水道・下水道の水質のさらなる向上, より満足いただける料金制度の構築, 広報・広聴の一層の推進など, 上下水道サービスの向上が図られている。
- 3 上下水道事業の財政基盤の強化が図られ, 安定した経営が行われている
節水型社会が進展し, 水需要の減少・料金等収入の減収が生じているが, 水需要に応じた施設規模の適正化や施設の再編成を進めるとともに, 一層効率的な事業運営に努めることにより, 上下水道事業の財政基盤の強化が図られ, 安定した経営が行われている。
- 4 浸水被害の発生が大きく低減し, うるおい豊かな都市景観を備えたまちとなっている
河川整備, 雨水流出抑制等の取組により浸水被害の発生を大きく低減させるとともに, 身近な水辺環境の創出で, うるおい豊かな都市景観が取り戻されたまちとなっている。
- 5 水に関する市民意識が高いまちとなっている
市民が主体となり水共生の取組*が推進されることにより, 水に関する市民意識が高いまちとなっている。

※ 「水と共に生きる」という理念の下, 河川や下水道の整備, 雨水貯留タンクや浸透ますの設置など, ささまざまな水問題の解決に向けた取組。

<参考> 政策指標例

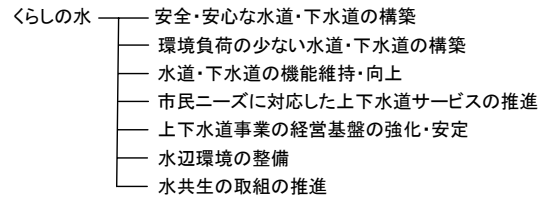
- ◆水道幹線・主要支線の耐震適合性管の割合 38.3%(H21) → 46%(H29)
- ◆道路部分の鉛製給水管の割合 27.9%(H21) → 0%(H29)
- ◆下水道経年管(戦前に布設した管路)対策率 74.5%(H21) → 89%(H29)
- ◆平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率 87.5%(H20) → 100%

市民と行政の役割分担と共汗



推進施策

施策の体系



1 安全・安心な水道・下水道の構築

都市の基盤施設である水道・下水道が、重要なライフラインの一つとして、今後も安全・安心な市民生活を支えていくため、鉛製給水管の解消や高度浄水処理施設の整備に取り組み、蛇口を通して、安全な水道水を安定して供給するとともに、雨水幹線等の整備を進めるなど、大雨による浸水の被害を最小限に抑え、市民の生命や財産を守る。また、大地震や風水害等の災害にも強い上下水道施設を整備する。

2 環境負荷の少ない水道・下水道の構築

本市が、琵琶湖・淀川水系における水循環の一翼を担い、今後も流域全体の水環境を保全し、環境負荷の少ない、持続可能な社会の実現に寄与していくため、下水の高度処理や合流式下水道の改善など、下水道の整備を推進し、市内河川と下流水域の水質の向上を図る。また、環境負荷の低減に向けた活動である環境マネジメントに継続して取り組み、事業活動全般において、一層の省エネルギー対策や資源の有効利用に努める。

3 水道・下水道の機能維持・向上

24時間365日稼働している水道・下水道の施設の機能を維持・向上させ、将来にわたって使い続けていくため、老朽化した基幹施設や管路施設について、適切な維持管理を行うとともに、計画的かつ効率的な改築更新を進める。また、近年の水需要の減少に伴う上下水道施設の稼働率の低下に対し、より効率的な事業運営を図るため、山ノ内浄水場を廃止するなど、水需要に応じた施設規模の適正化等を進める。

4 市民ニーズに対応した上下水道サービスの推進

市民が毎日利用する必要不可欠なサービスである水道・下水道について、関心を高め、その重要性への理解を深めていただくため、積極的な広報活動や分かりやすい情報開示の推進、広聴機能の充実を図ることによって、市民に信頼され、親しまれる上下水道事業を目指す。さらに、市民ニーズの多様化・高度化に対応するため、利用者の要望を的確に把握し、迅速な対応に努めることにより、利便性の向上をはじめとする、お客さまサービスの一層の推進に取り組む。

5 上下水道事業の経営基盤の強化・安定

水需要の減少によって水道料金・下水道使用料収入が落ち込み、財政状況が厳しさを増す上下水道事業について、将来にわたり安定した経営を行っていくため、維持管理や建設再投資に係るコスト管理の徹底、上下水道の一体体制による技術、資金等管理の一元化の推進など、一層効率的・効果的な事業運営を実施し、財政の健全化・経営基盤の強化に努める。また、人材の育成や、知識・技術の継承・発展、国際貢献等を推進する。

6 水辺環境の整備

河川及び雨水流出抑制施設の整備等による治水対策を進めることで、流域内の浸水被害リスクを軽減させ、都市型水害の最小化を目指す。早期の治水効果発現のため、暫定的な治水安全度として概ね10年に1回の確率で起こりうる洪水に対応することを目標とし取組を推進する。また、人々のくらしとまちの活性化の礎となった京の川づくりの歴史に学び、次世代に自然の恵み豊かな河川を引継いでいくことを基本理念として、市民に身近な水辺環境を創出する。

7 水共生の取組の推進

水に関する諸課題の解決に向け、流域全体を見据えた治水対策、良好な水辺環境の実現、健全な水循環系の回復などの取組を、市民・事業者・行政等が連携して推進する。

特に、市民の関心が高い雨水貯留・浸透施設の整備、水辺環境の保全、水災害対策等にかかる市民主体の活動に対し、具体的な支援・連携を推進する。さらに、取組の実行→効果検証→改善→再計画のプロセスを踏まえて取組を深化させ、市民に浸透する息の長い継続的取組を推進する。

関連する分野別計画

京都市水道マスタープラン（平成13年度～平成37年度）
京都市下水道マスタープラン（平成13年度～平成37年度）
京（みやこ）の水ビジョン（平成20年度～平成29年度）
京都市上下水道事業 中期経営プラン（平成20年度～平成24年度）
京都市上下水道局 企業改革プログラム（平成21年度～平成24年度）
京都市水共生プラン（平成15年度～）
第10次治水五箇年計画（平成19年度～平成23年度）
雨に強いまちづくり推進計画（平成22年度～）